職 務 経 歴 書

2025年９月7日現在

氏名　唐 泊文

■職務要約

2023年9月～2025年3月、ECLエージェンシー株式会社に長期インターンをした。

2025年4月～現在、株式会社ゼンリンにてシステムエンジニア業務に従事しました。

地図と海運・物流領域における要件定義から設計、テスト、ユーザートレーニングに至るまで、一連のシステム開発フェーズを経験しています。多国籍チームとの業務推進や顧客との折衝を通じて、調整力および推進力を培ってきました。

また、技術的なスキルにとどまらず、プロジェクトを通じてチームや顧客の課題解決・改善提案にも取り組んでいます。

2020年、国際的な数理建模大会（The Mathematical Contest in Modeling, MCM）に出場し、参加賞をいただきました。

■活かせる経験・知識・技術

・豊富な言語知識(Java、SSMフレームワーク、HTML、CSS、JavaScript、MySQL、C、Python、Git)

・データ分析に関する経験とスキル  
・最適化アルゴリズムおよびAI関連技術への知見

・要件定義～運用までの一貫経験

■職務経歴

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 2023年9月～2025年7月　ECLエージェンシー株式会社（数十名規模） 長期インターン | | |
| 事業内容：業務効率化システム開発  資本金：非公開  従業員数：非公開（数十名規模）　上場：未上場 | | 長期インターン |
| 2022年8月  ～  現在 | 〇〇製造業社／グローバル共通ERP導入  【プロジェクト概要】  　本プロジェクトは、グローバル全社のERPを統一し、社内の基幹業務プロセスを標準化するものです。販売・物流・財務などの全システムをERPに統合し、受注・出荷・請求・会計の全プロセスをグローバルで統一することにより、生産性の向上およびタイムリーな経営判断の実現を目指しました。  【担当業務】  ・要件定義（ユーザー要求整理・機能/非機能要件・業務準備計画）  ・設計、テスト（オフショア作成物のレビュー、顧客への説明・承認）  ・ユーザトレーニング（計画、準備、トレーニング実施、アフター対応）  ・グローバル体制でのコミュニケーション計画作成・実行主体 | 規模/役割  300名  管理会計チームサブリード |
| 【実績・取り組み】  　管理会計領域のアドオン開発におきましては、開発工数や費用への影響を考慮し、業務上必要最小限の設計を主導しました。自身が顧客の責任者層に対して、開発の必要性について丁寧にご説明し、コストと品質を両立させた構成をご提案し合意形成を実現しました。  　さらに、経営層がKPIに基づきリアルタイムで情報を把握できる仕組みをご提案し、通知方法やフォーマットを含めた詳細な設計を行うことで、迅速な経営判断の支援を実現しました。本プロジェクトは、当初のスケジュール通りに高品質で進行し、新商品の投入スピード向上や生産計画の高度化といったビジネス面でも大きな成果を挙げました。  　これらの取り組みは顧客マネージャーのみならず部長・役員層にもご評価と高い信頼感をいただき、自社内においても高い評価を獲得し殊勲賞の受賞につながりました。 |  |

■資格

|  |  |
| --- | --- |
| TOEIC Listening & Reading TEST 175点 | 2021年9月取得 |
| SAP Certified Application  Associate (S/4 HANA FI, MM) | 2023年8月取得 |
| 日商簿記検定3級 | 2024年10月取得 |

■その他活動（Off-JT・社内外活動）

日々の業務の中で、若手コンサルタントが体系的にプロジェクトマネジメントを学ぶ機会が少なく、実務でつまずく場面を目の当たりにしてきました。特に私自身も同様の課題感を抱えており、「若手が現場で迷わず力を発揮できる環境をつくりたい」という思いから、仲間と共に講座を企画しました。単なる知識提供にとどまらず、リアルな失敗事例や成功事例を通じた実践的な学びを重視し、受講者自身の思考力・対応力を育てることを意識しています。将来的には、講座を通じて育成された人材が、自律的にプロジェクトを牽引し、組織の競争力強化につながることを目指しています。

＜顧客満足度調査の立ち上げと推進＞

従来、顧客からの定量的なフィードバックを得る機会が少なく、「本当に価値を提供できているのか」という不安や手応えの乏しさを感じていました。現場の声を可視化し、成果や課題を真摯に受け止める文化を根付かせることが、サービス品質の底上げと信頼獲得につながると考え、満足度調査の仕組みづくりを提案・主導しました。ポジティブな評価は積極的に称賛・共有し、ネガティブな評価についても組織として向き合い、改善に結びつけることを徹底しています。この取り組みを通じて、「顧客起点で変化し続ける組織」を実現したいと考えています。

＜ホスピタリティと改善思考を両立し、現場から価値を高める取り組み＞

学生時代から一貫して現場業務に携わる中で、「目の前の方にどうすれば満足してもらえるか」というホスピタリティの視点と同時に、「どうすれば現場全体の働きやすさや業務の質が上がるか」という改善視点を持って取り組んできました。勤務時間外も活用し、サービス設計や業務改善に関する本や事例を学ぶほか、他店舗のスタッフとの意見交換も行い、気づきを日々の業務に反映させています。

現場での小さな気づきや改善の積み重ねが、チームの動きや業務の効率、顧客満足度の底上げにつながることを実感しており、こうした実践を通じて、組織全体の課題解決やサービス価値の向上にも貢献できると考えています。

■自己PR

＜複数ステークホルダーを巻き込んだPJ推進力＞  
　国内外の複数ステークホルダーの利害を理解し、円滑に且つスピーディーにプロジェクトを推進していくことを強みとしております。現在推進しているプロジェクトはアジア各国から参画する複数の国のメンバーが関与しており、かつクライアントも複数部署が絡み合う大規模なものとなっております。その中で、文化や組織の商習慣、パワーバランスを理解し、適切な言葉遣いやコミュニケーションルート、課題解決の優先順位付けを意識して、要件定義・調整や課題の整理を行ってきました。その結果、クライアント部長・執行役員からも高い評価を頂き、継続的なプロジェクト参画へとつながっております。

今後は、自分の観察力や実行力だけでなく、プロジェクトメンバー一人ひとりの強みも最大限引き出し、チームとしてのシナジーを生み出すことで、顧客の真の課題解決と最終的なサービス価値の向上に貢献していきます。

＜顧客対応・後輩育成・グローバル調整を並行しながら、高品質な成果を継続＞新卒入社後、初期配属のプロジェクトながら、管理会計チームのサブリードとして、多岐にわたる業務を遂行しました。常に顧客対応・グローバルとの調整・後輩育成といった複数の業務を並行しながらも、質の高いアウトプットを維持したことで評価をいただきました。2024年には約600人が所属する部門において、困難なプロジェクトで高いパフォーマンスを発揮したことが評価され、殊勲賞を受賞しました。

私は【ｘｘｘ領域の専門性】×【相手の立場で考え、巻き込むコミュニケーション力】という掛け算で価値を発揮できると考えています。単なる知識提供にとどまらず、「一緒に改善していく推進力」を持ちながら、クライアントや消費者目線の提案ができることが私ならではの強みです。この掛け算を活かし、専門的な知見と柔軟なコミュニケーションで、クライアントと生活者双方の価値向上を実現するコンサルタントを目指していきます。

以上